

地域づくり協議会だより

◎ 原稿募集中

広報部会

発行日：令和元年11月1日 発行者：大和町連区地域づくり協議会
一宮市末広三丁目6番1号(大和町出張所内) 電話：28-9006

5,403人(大和町連区満75歳以上)の高齢者の方をお招きして、敬愛と感謝、長寿を祝福する場が設けられる。

令和元年度

大和町連区敬老会

日時：9月15日(日)pm1:00～
場所：大和中学校



会場：屋内運動場



市長祝辞



大和中学校ブラスバンド演奏

目まぐるし変わる世相の中でここまでこれたのは、皆様方のご協力と先輩方のご指導ご鞭撻の賜物と感謝いたしております。また、来賓の方々の心温まるお祝い・励ましのお言葉を頂戴し、誠にありがとうございました。これからも微力ながら、子供たちの見守りや地域への貢献ができるようにと望んでおります。敬老会にご尽力いただいた方に感謝いたします。



加藤榮治大和老連会長謝辞(抜粋)



大和ハーブクラブ大正琴演奏



学生チーム"鯨"よさこい鳴子踊り



8/22敬老会の打ち合わせ



ボランティア活動:会場設営・記念品袋入れ&配布・お楽しみ抽選会



親子ふれあい教室

7月28日(日)、大和公民館で家庭学習部主催の「夏野菜の家庭でできる洋風料理」が開催されました。親子15組の皆さんが『おもてなしの会』の協力を得て、楽しく調理に取り組んでいました。後日、木工教室・ドッチビー等・和菓子づくりの3講座も大盛況であったと伺いました。



子ども夏まつり

大和公民館家庭学習部長 小関 貴士

8月25日(日)、大和公民館で子供夏祭りを開催しました。今年で11回目となる「鮎のつかみどり・塩焼き体験」には、夏休み最後の恒例行事に定着した感じで、午前前の行事にも関わらず総勢1,000人にも及び親子が集まり、長蛇の列が絶えませんでした。朝からプールシートと木材で水槽を作り、生きのいい500匹の鮎を放流して全身濡れながら素手で捕まえて食べる『ヤナ感覚』の醍醐味を感じていただきました。子供たちには、夏の楽しい思い出として心に残ったことでしょうか。今年はじめて、ミニSL機関車を走らせ、皆さんに乗車体験を楽しんでいただきました。また、今年も巨大迷路を大会議室に設営し、参加した子供たちにドキドキさせるような工夫を凝らして取り組みました。他にヨーヨー風船、ポップコーン、かき氷、輪投げなど、どのコーナーも大盛況となりました。公民館活動の魅力ある事業の一環で家庭学習部が中心となり、前日から準備に取りかかり、子供ボランティアをはじめ多くの皆様のご協力をいただき、大成功で幕を閉じました。



**癒しサロン末広とサロンすえひろ・2の
合同ふれあいサロン**

4月:小牧市歴史館、小牧ワイナリー、田縣神社



4月19日(金)、前日の雨が上がり30名の参加で織田信長ゆかりの小牧山城へ、ガイドの鶴飼氏と市役所前でマッチングしてスタートです。ガイドさんの軽妙な話術で小牧の歴史について色々話を聞き、急な階段も、我を忘れて登城して城内見学。下りはガイドさんの誘導で落伍者もなく無事下山。

次の訪問先、就労支援B型施設「小牧ワイナリー」(県下に唯一のワイナリー)。昼食タイムは、コーヒー・ぶどうジュースがフリーで楽しい食事、小牧山の疲れも取れる。次は、ワイン畑、ワイン工場(ラベル貼工程)で一生懸命働く障害者の方々と質疑応答に感激。少しでも協力とワイン等を手に取り会計。

次の訪問地(ミステリーにしてあった)田縣神社へ、子孫繁栄が有名で大きな男型に「ビックリしました」と口々に言って参拝しました。この神様は「五穀豊穡の神様」と聞いてマタマタビックリしながら車内へ。

多くの私語飛び交う中、楽しい旅の終りは、風鈴と小牧で買ったパンを渡され皆相好を崩して帰宅されました。トラブル・事故なく楽しい一日でした。(世話人:太田一弘)

**特集⑥
ふれあいサロン**

戸塚ニュータウンサロン 月第2(木) 集会場

3月:ゲーム大会 暑き思いに包まれたさわやかサロン



**末広3丁目カラオケ同好会&サロンと
末広1丁目ふれあいサロンの合同ふれあいサロン**

8月:ギター演奏・盆踊り 場所:末広3町安賀集会室
心身への軽き負荷が明日の良き笑顔に繋がるサロン



一日研修を終えて

民生児童委員 酒井 秀作

9月27日(金)、連区住民の福祉増進の一翼を担う大和町連区民生委員児童委員協議会の一員として、事業推進に必要な知識・技術習得のために計画された「緊急連絡通報システム事業所」と「名古屋市港防災センター」の研修視察に参加しました。

一宮市は、おおむね65歳以上のひとり暮らしの方に緊急通報装置を貸与し、安否確認と緊急時の迅速な対応をねらいとする事業を行っています。今、市の委託を受けたこの緊急連絡通報システム事業所には3,556人の方が登録され、安心安全な生活を送るためにこのサービスを利用してみえます。個々人の台帳を整備して、24時間専任のオペレーターが対応し「地域見守りネットワーク」の中核を担う事業の地道な取り組みに嬉しさを覚えました。

名古屋市港防災センターは、いざという時に備えて一人ひとりが災害の実態を正しく知り、それに対処する方法を身につけるための施設です。展示コーナーに、過去の巨大地震の説明があり、ことわざ『備えあれば患えなし』の通り、私たちの取り組み次第で減災を可能にできることが分かりました。家具などの防止策は、「落ちてくる・倒れてくる・動いてくるもの」から生命をはじめ、被害を小さくできます。震災が発生したら「室内ならば、丈夫な机の下に隠れる」いきなり外に出るのは危険です。揺れが収まり、自身や家族の安全を確保して火の始末、隣近所の初期消火活動や救助活動にあたります。理にかなう「災害模擬体験」を当センターで学ぶことが出来ました。

市には、東日本大震災の教訓を踏まえ、災害対策基本法改正による「災害時要援護者支援制度」があります。自力や家族のみで大規模災害時に避難できないので、障害、ひとり暮らし等々自らの理由を明かし(守秘義務)、町内会長や民生児童委員ら住民の善意による支援の手助けを求めてみえます。市内にはおよそ19,000人、大和町連区には2,000人の方がみえ、年々増える傾向にあります。要援護者の方を含め全住民の安全安心な町内になるには、知恵を出し合い、自他共に生命を大切にすることを求められています。連区地域づくり協議会を構成する各団体と協力してその任を務めていかなければと思う研修となりました。



地域見守りネットワーク



レイアウトと家具の工夫



身を守る行動